

がんセンターだより

第 34 号

平成24年10月1日 発行

発行

埼玉県立がんセンター

発行責任者

病院長

田中 洋一

基本“唯惜命”
理念

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

目次

- 消化器のがん(胃がん、大腸がん、食道がん、膵臓がん、肝臓がん)の化学療法と向き合って… 1
- 病院内のすべての人を感染から守るために／胃がんの新しい予防法の開発を目指して… 2
- 新副病院長あいさつ／第37回 埼玉県民のための“がんの集い”…………… 3
- がんセンター新病院のご紹介…………… 4



埼玉県のマスコット コバトン

消化器のがん

(胃がん、大腸がん、食道がん、膵臓がん、肝臓がん)
の化学療法と向き合って

血液のがん(白血病、リンパ腫など)以外のがんでは、早期に発見して外科的に切除することが重要と考えられています。そのために、胃がん、大腸がんでは症状が出る前にがんを発見し治療するために「検診」が推奨されています。しかし発見されたときにすでに手術で取り切れない状態の時は、残念ながら治癒を目指した治療がなかなか目指しづらいので、抗がん剤を使って大事な寿命を延ばす治療を行います。我々、埼玉県立がんセンターの消化器内科ではこういった進んでしまった患者さんに対して抗がん剤治療に取り組んでいます。

日常診療の場で、患者さんが持っている印象は、抗がん剤治療はとてもつらいというもの。そのために初めての抗がん剤投与のときに、とても緊張しておられるのをよく目にします。確かに、皆さんがテレビドラマで目にする抗がん剤は、吐き気にさいなまれ、髪の毛が抜けて、ぐったり日常生活もままならなくなってしまうものという風に描かれていますし、報道などでも悲惨な(壮絶な)闘病生活をいう見出しで紹介されています。

実は、私が医者になった22年前は、まさしく消化器のがん化学療法は効果が乏しく、副作用対策が未成熟であったため、患者さんにとっては大変厳しいものでした。しかし、いまでは抗がん剤の副作用対策も進んできています。たとえば患者さんが最も嫌う吐き気に対する対応がその代表例です。吐き気の対策は、ステロイド剤をうまく使うことと、新しく使えるようになった吐き気止めの薬を適切に使うことにつきます。いまでは抗がん治療ごとに吐き気の頻度が検証されており、適切な吐き気対策を行うことがガイドラインにおいて推奨されています。吐き気だけでなく様々な対策が確立されており、患者さんの闘病をサポートしています。当時と比べて、抗がん剤投与中も笑顔で過ごされる患者さんが圧倒的に多いです。抗がん剤とつきあいながら旅行に出かけたりされる方も増えています。単純に抗がん剤投与だけが中心の治療ではなく、日常生活の質を保ちながら自宅で生活できることを第一に目指しております。

とはいえ、副作用対策がよくなったからといって、抗がん剤治療は手放しで安全というわけではありません。抗がん剤は安全域が狭いといわれており、過量に投与されると命に関わる副作用が強く出てしまいます。また、適切に注意を払って治療しないと副作用が患者さんの体力を奪ってしまうことも起きてしまいます。ですので、抗がん剤はできれば専門の医師または抗がん剤治療を熟知した医師から受けていただきたいと思います。

消化器内科では新薬の治験も含め抗がん剤治療に精通した医師が診療に当たっています。患者さんも後ろ向きにではなく、我々がお手伝いいたしますので化学療法に取り組んでいただきたいと思います。



消化器内科

科長兼副部長

山口 研成

病院内のすべての人を感染から守るために



「患者さんが安全に医療を受けられるがんセンターであること、職員が安心して働けるがんセンターであること」という目標を掲げ、医療現場における感染のリスクを最小限にし、病院内のすべての人を感染から守るための活動を2007年から行なっております。具体的には、医師・看護師・検査技師・薬剤師・放射線技師・栄養士・事務職員にて構成される「感染対策チームInfection control team: ICT」メンバーと病院内で問題となる微生物や感染症の発生状況を把握し、それらが拡大しないよう週1回のラウンドと各部門との連携と調整を行いながら、効果的な感染防止対策活動の推進を行なっております。また、看護部内にはICTと協働する「感染リンクナース」も活動しております。



感染管理認定看護師
池田真弓

2012年4月からは、埼玉県総合リハビリテーションセンターとお互いの施設の感染対策の向上を目的とした「感染合同カンファレンス」を開催しております。感染症対策や施設内の整備などお互いに確認し合いながら、埼玉県地域の感染対策にも取り組んでおります。現在は新病院移転に向けて、感染管理の立場から「日本一患者と家族に優しい病院」作りに参加し準備を進めておりますので、今後もしようしくお願いいたします。

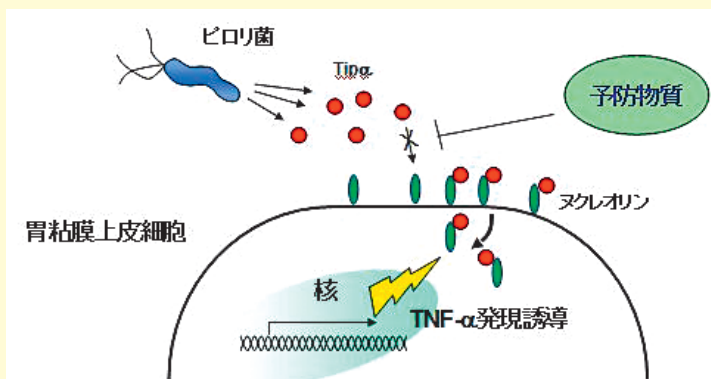
胃がんの新しい予防法の開発を目指して

－ ピロリ菌による胃がん発症メカニズムの研究 －

ピロリ菌はヒトの胃に感染する細菌で、60歳以上の日本人の8割が感染しており、慢性胃炎、胃潰瘍や胃がんの原因となります。慢性胃炎や胃潰瘍の方へのピロリ菌の除菌治療は胃がんの予防に効果があります。一方、胃の疾患が認められない場合には、薬剤耐性菌の増加を防ぐためにも除菌に頼らない新しい胃がん予防法の開発が重要です。私どもはピロリ菌が胃がんを引き起こすメカニズムを明らかにして、新しい胃がん予防法を開発する研究をしています。胃の発がんを促進するピロリ菌の新規のタンパク質を発見し、Tipαと名付けました。このTipαは胃粘膜の細胞表面にあるヌクレオリンに結合して、細胞内に取り込まれ、ヒトの発がんを促進するkey分子TNF-αを誘導し発がんを促進することを明らかにしました。さらに、Tipαとヌクレオリンの相互作用を阻害する化合物を見出しました。これらが新しい胃がんの予防薬となると期待しています。また、ピロリ菌感染者が世界のおよそ半数を占める一方、そのうち胃がんを発症するのはごく一部です。細胞表面のヌクレオリンを指標にピロリ菌感染者の中で胃発がんのリスクが高いヒトを見つける新しい診断法の開発も試みています。



研究所
渡邊 達郎



新副病院長のご挨拶

皆様に御挨拶申し上げます。私こと平成5年がんセンター奉職以来、消化器外科医として肝胆膵がんの診療に励んで参りましたが、平成24年4月副病院長を拝し、田中病院長の補佐と外科医の二足のわらじです。

さて、平成25年12月に生まれ変わる新がんセンターのコンセプトは「最新の医療を提供する病院、日本一患者と家族に優しい病院」です。最新の医療提供とは、院内での高度な医療だけでなく、都道府県がん診療連携拠点病院として新しい医療を埼玉県全域で受けられるよう伝導することも含みます。院内での多職種協力にとどまらず他病院、診療所、訪問看護ステーション、薬局、患者さんご家族との連携（チーム医療）が重要です。そこで実現する患者さん個別の最適ながん医療（パーソナル医療）そして安全性の高い医療が患者と家族に優しい病院につながります。

少子高齢化社会を迎え、がん患者の増加と高齢化に直面しています。がんセンターの使命と責任はますます大きく、がんセンターはさらに飛躍し、高度機能、連携、人材育成を充実させて参ります。職員一同、大きな目標に向けて努力、研鑽して参りますので、皆様の応援で力を頂けますようお願い申し上げます。



副病院長
坂本 裕彦

第37回 埼玉県民のための“がんの集い”

趣 旨

当院では、県民の方を対象に最新のがん医療情報を提供すると同時に、様々な問題点を提示し、共に解決法を考えていただく場として、毎年“がんの集い”を開催しています。

テ ー マ

「チーム医療でがんに挑む ―最適なパーソナル医療の実践―」

開催日時

平成24年12月1日（土）13：00～16：10

開催場所

埼玉県県民健康センター 大ホール（入場無料・事前申込み不要、定員500名）

後 援

埼玉県医師会 埼玉県健康づくり事業団

概 要

1 チーム医療についての紹介

がん治療にあたって、どのようなチーム医療が展開されていくのかをがんセンタースタッフが紹介いたします。

- ①チーム医療全般 ②がんサージカルボード ③栄養管理チーム
④退院調整チーム ⑤緩和医療チーム

2 講 演

演 者 浜野 公明 氏（千葉県がんセンター経営戦略部長）

テーマ 「がん診療におけるチーム医療～病院内チームから地域のチームへ～」

内容は変更となる場合があります。



- 浦和駅から徒歩15分。
中浦和駅から徒歩20分。
- お車でのご来館はご遠慮願います。

がんセンター新病院のご紹介

埼玉県立がんセンター新病院建設の進捗状況

埼玉県立がんセンター新病院の建設工事は順調に進んでいます。平成23年7月の着工から基礎工事、免震装置の設置、地下部分の躯体工事を行い、現在、地上部分の躯体工事を行っています。

職員公舎の建設や敷地周辺の道路整備など複数の工事も並行して行っており、平成25年12月末のオープンに向けて着々と整備が進んでいます。

新病院では、県立4病院で初めて院内にカフェ専門店を設置するなど、患者さんや家族の方をはじめ、すべての利用者へのサービス向上を図るため、アメニティ環境を充実させます。

今年の6月から8月にかけて、カフェや売店など新病院内で営業を行う出店事業者をプロポーザル方式により公募し、4業種で最優秀提案者を選びました。

カフェは「カフェ・ド・クリエ」を展開する「株式会社ポッカクリエイト」、売店は「ファミリーマート」のフランチャイズ加盟店として「株式会社文教」、外来・職員食堂は、ロイヤルホストなどを展開するロイヤルグループの企業である「ロイヤルコントラクトフード株式会社」、理美容室及び医療用かつら販売は、かつらメーカーの「株式会社スヴェンソン」です。いずれの事業者も病院内での営業実績が豊富で、ホスピタリティ溢れる店づくりの提案がありました。

今後も「日本一患者と家族にやさしい病院」を目指し、開院に向けて着実に準備を進めていきます。

新病院外観イメージ



平成24年8月現在の状況



◀カフェ
イメージ図



◀売店
イメージ図



◀食堂
イメージ図



◀理美容室
イメージ図